

小松の石文化

日本遺産サミット あす開幕

アンコールワットと交流

「小松の石文化」が日本遺産に認定されている小松市は、13日に開幕する「日本遺産サミット in 小松」で、世界遺産「アンコールワット遺跡群」があるカンボジア・シェムリアップ州と交流する。現地中継やパネル討論を通して、同じ石の文化財を持つカンボジアの関係者から保全や有効活用ノウハウを学び、石文化の魅力をさらに磨く。

保全、活用学ぼう

カンボジアと小松をオンラインでつなぐ「海外Live配信」はサミット2日目の14日、サイエンスヒルズこまつで行う。

カンボジアからはアンコールワットの修復、保全を担う国立アンコール世界遺産管理機構のロン・コサル副事務局長が遺跡から中継で参加し、遺跡の概要や修復作業の現状を紹介する。石の文化財を保全する苦労や技術について話を聞く。



日本遺産サミットでライブ配信を行うカンボジアのアンコールワット

(小松市提供)

パネル討論では、市側から金大環日本海域環境研究センターの塚脇真二教授らが参加し、意見を交わす。「小松とアンコールワットでの石の文化財の地域活用」をテーマに、観光資源としてだけでなく、地元に対して求心力のある文化財のあり方を考える。

小松市では2016年、塚脇教授

が小松短大特任教授を務めていた縁で、学生や市の訪問団がシェムリアップを訪れた。両地域間で友好協力に関する合意書を締結しており、オンライン交流を企画した。

滝ヶ原地区、サイト作成

公立小松大生

日本遺産サミットに向け、公立小松大国際文化交流学部の3年生9人は、「小松の石文化」の構成文化財がある小松市滝ヶ原町を紹介するウェブサイトを「滝ヶ原ワールドウィーク」を作成した。

滝ヶ原はサミットのサテライト会場の一つ。サイトではアーチ型石橋や石切り場などを360度カメラで撮影したパノラマや、石に関する歴史などをまとめたPR映像を盛り込み、観光気分を味わえる。期間中は学生が来訪者を案内する。



アンコールワット カンボジア北西部のシェムリアップ州にある世界最大級の石造寺院。クメール語で「寺院によって造られた町」の意味がある。12世紀初めに建立され、巨大な環濠(かんこう)に囲まれ、回廊の中心に祠堂(しどう)が立つ。1992年に世界文化遺産に登録された。